

法話

仏の夢に導かれ 喜びで生きる

総本山知恩院執事 神田眞晃
同 おてつぎ運動本部副本部長



1月13日に開かれた「おてつぎ文化講座」の要旨を採録しました。

●おばあさんの見た怖い夢、実はめでたい夢の一つ

まずお手を合わせていただいて、お念仏をお唱えしましょう。自己紹介を簡単にしますと、自坊は大阪の法善寺です。ご縁ありまして、私は、昨年、12年ぶりに2度目となる知恩院の執事職に上がらせていただきました。

能登半島地震では被災者の皆さんが、たいへんご苦勞されておられますが、今から29年前、関西では阪神淡路大震災がありました。私は当時、浄土宗青年会で救済物資を持って現地にボランティアに行ったことを思い出します。その時、阿弥陀さまが私たちを支え救済してくださいとお願いで、ボランティア活動もできました。

本日は「仏の夢に導かれ……」とタイトルにあるように、仏の夢でも救済されるお話です。ある日のこと、私のお参り先のおばあさんが、怖い夢を見たお話です。ご主人が亡くなった中陰中、私が三七日のお参りで伺ったところ、「えらい怖い夢見たんです」とすがって来られたんです。どんな夢か、と尋ねたら、ご主人が迎えに来たと言われ、それも棺桶の中に一緒に入っている夢でした。右見ても左見ても板、板。目の前も板。頭の上も板、棺桶の中に入っていて、ガタガタ、ガタガタ……と揺れている夢。霊柩車で運ばれている道中で、行く先は斎場。大阪では霊柩車が斎場に到着してクラクションを鳴らすと係員が出て来るシステムです。クラクションが「ブツブツ」と鳴り、おばあさん慌てました。「いよいよ、焼かれてしまう」と。「生きているから焼かん」といて」と大声を張り上げたら、目が覚めた、という怖い夢でした。その場で、私、いろいろ考え、ハッと気づいたので。正月の初夢の話伝えたら、おばあさ



神田眞晃（かんだ しんこう）

1954（昭和29）年、大阪市生まれ。1999（平成11）年から大阪教区・法善寺住職。総本山知恩院布教師会参与。2023（令和5）年2月から知恩院執事、おてつぎ運動本部副本部長。